

## 2004年10月14日の部分日食



10月14日11時35分  
の太陽のようす（明石）

ステラナビゲーターを使用  
し  
図を作成

10月14日のお昼前、部分日食が日本全国で見えます。

日食が、日本で見えるのは2002年6月11日の部分日食以来2年ぶりです。

日食とは、新月のときに、太陽・月・地球の3つの天体が一直線に並び、太陽が月に隠される現象です。太陽が月に完全にかくされる日食を皆既日食、太陽の縁が月のまわりにはみ出して見える日食を金環日食、太陽の一部が欠けた日食を部分日食といいます。

今回の日食は、明石・神戸地方では、10時51分にかけて始め、11時35分に最も大きくかけます。その後、12時19分に日食は終了します。最大で太陽の直径の15%ほどかけます。

次回日本で見られる日食は2007年3月19日です。ただし、欠けるのはわずかです。その次に2009年7月22日には屋久島と奄美大島北部で皆既日食が見られます。このときには明石でも9割程度太陽が欠けます。

### 【日食を見るときにの注意点】

日食を観察するときは、目を痛めないように特に注意が必要です。比較的安全な見方は、次のようにするとよいでしょう。

白黒フィルムを感光させて現像したもので見る。

カメラ店などで日食グラスを購入して見る。

JIS規格の溶接用遮光プレートを使用する。

学校の理科教材の太陽観察用プレートを利用する。

プラスチック製の下敷きや、感光したカラーフィルムは赤外線を通すので目を痛める可能性があり、危険です。

また、望遠鏡では絶対に直接のぞかないこと。必ず太陽投影板に投影して見るようにしてください。当日は、天文科学館でも日食観望会を実施します。